

しょうぶまつ

生産祭り起源

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

愛知県大府市明成町一丁目一七五
〇五六二 四四 〇七〇八

平成十八年六月六日 芒種の日

だいうちゅう じげんかい そうせい
大宇宙十三示元津の創世

正義と良心の神「大正腑天神の大霊神理氣」の顕現によって、十三の示元津が創られたので御座居ました。

その十三示元津とは、一示元津には太陽界を、二示元津には日輪界を、三示元津には水星界を、四示元津には金星界を、五示元津には地球界を、六示元津には月施界を、七示元津には火星界を、八示元津には木星界を、九示元津には土星界を、十示元津には天王星界を、十一示元津には海王星界を、十二示元津には冥王星界を、十三示元津には障壁賀界を設えに成り、それぞれの示元津に生命誕生の為の責務が課せられたので御座いました。

中でも生命を誕生させる地球の創世には、三示元津から十三示元津までの十一示元津をお使いになり、邊土と海水が阿弥生産出され、五示元津に集められ、大きな塊「地球」が創り出され、その中心には熱を温存する事が出来る「熱蔵帯」が設けられたので御座居ました。

そして其の地球界に熱を絶え間なく温存する為に、六示元津に月施界が配置さ

れ、定期的に海水を旨く移動させる、潮の満ち引き満干を齎し、邊土と海水との摩擦熱を旨く地球界の中心「熱蔵帯」に蓄えに成り、冷え切ることの無い生命界地球を、創世されたので御座居ました。

そこで更に、水星界から障壁賀界までの十一示元津に、生を発生沸き立たせに成り、太陽の光りの最限界なる「宇宙産迂迦の障壁賀津」の中に存在する天王平に、総ての生を集め集わせに成り、太陽界から飛来して来る丹を、お待ちになるので御座居ました。

此処で創めて太陽に、丹と芒種のエネルギーを練り阿弥生産出させになり、太陽の周りに黄金の輪「日輪津」を設え、丹と芒種のエネルギーが、太陽の真光を受けて照り輝き返し会い、互いに高まり来る亢進状態を、お待ちになるので御座居ました。

この太陽の真光と丹と芒種のエネルギーとが、日輪津において亢進状態にお入りになる神姿を、天照皇大御神又は、三宝荒神とおよび申上げ拝するのでござ

います。また亢進状態となって迂迦の障壁賀津を指して飛来する御姿を、阿弥陀如来とお呼びしているので御座居ます。

障壁賀津の中の天王平での出来事

正義と良心の神「大正腑天神の大靈神理氣は、直ちに太陽の真光に、丹と芒種のエネルギーとをお乗せに成り、邊土や生を発生抽出された十一の示元津を回転し乗り越えになり、太陽の真光が届く最限津なる宇宙産迂迦の障壁賀津の中、(宇宙産の子ノ宮)「天王平」の入り出口であります、天の意和戸の前に降り立たれたので御座居ました。

丹と生の結合

太陽の真光は、総ての生き物の生命を育生する事が出来る芒種のエネルギーと、その芒種のエネルギーを消費する生命の元となる丹とを、亢進状態のままに、十一示元津を回転し乗り越えられた阿弥陀如来さまは、天王平の入り出口であります天の意和戸の前に到着されるや、太陽の真光だけを直ちにお返しになるので御

座居ました。

すると天王平に反射し、**翻り**、**裏光**と成った**真光**は、**月施界**と**地球界**が配置される**六示元津**と**五示元津**に**摺り**、**太陽界**から直接に飛来する**真光**とが**交叉**するや、**直ちに無色**で**透明**なる**真空光帯**を**創り出し**、**生命の誕生**と共に、**蜜と乳**を生産出す**示元津**を**創られた**ので**御座**いました。

天の意和戸の前に**残**されていた**丹**と**芒種**の**エネルギー**は、**大正腑天神**の**大靈神**理氣に**導かれ**、**天王平**の中の**蜜生**の間にお入りに成り、**丹**と**生**を**結合**させると同時に、**正腑の魂**を**付迦遊**ばされ、**生命遺伝子**となる前の「**丹生丹生魂遺伝子**」が憑軀子されたので**御座**居ました。

「命」生命の掟を

正義と**良心**の**神**、**大正腑天神**の**大靈神理氣**、「**宇宙産創り主**」は、**総ての丹生丹生魂遺伝子**に**組み込まれた****正腑の魂**に、**総ての物事動植物・人間**に、**総てを通じ合せ**会わす事が**出来適う**「**知瑠恵**」を**授けられ**、**即座**に**善と悪**を**定め**、**分別**出来る

運命が**組み入れられた**ので**御座**居ました。

正腑の靈魂と知瑠恵の連鎖

この**永遠不滅**の**生命界**は、**恵**から**恵へ**と**大連鎖**によって**創られた**「**知瑠恵**」の**施津**であり、**常に恵**を**豊授**して**不滅**の**生命**の**弥栄**の**為**に**活動氣**つくす、**知瑠恵**をもつて**一生を終える**事が**出来た****靈魂**は**善魂**として、**輪廻転象**の**靈神力氣**の中で**転生**生産れ**変わる**事が**許される**ので**御座**居ます。

それに**反**して**永遠不滅**の**生命**を、**自我**の**欲望**から**発**して**来る**「**知恵**」に**惑**わされてしまい、**尊き命**「**生命**」を**蔑**ろに**使**て、**生命**の**弥栄**を**阻害**する**生氣**方の中に、**一生を終えた魂**は**悪魂**として**記し置かれ**、**輪廻転生**の**大靈神理氣**の中で**転生**生産**変わる**事が**許**されないのです。

更に、**生命界浄化**の**為**に**仕組**まれているのが、「**大正腑天神**の**大靈神理氣**」によって、**宇宙産**十三**示元津**の外、**太陽**の**光**りの**届**かない「**無生津**」に**追放**される恐

ろしさを知理置かなければならぬのです。

今の私たち人間の多くが、其の恐ろしさを知らず、自我の欲望から発している「知恵」を英知と想い込み使い、永遠不滅の生命界の未来を阻害して、生きている靈魂は、永遠不滅の生命界の浄化の為に、永劫に生産れ変わり来る事が出来ないのです。

このような事態を招く「悪魂」多き民族・国は少子化となると共に、人心が乱れ、止めど無く滅び逝くのが運命で御座居ます。正義と良心の満ち溢れている神の施津は、嘘偽りが通らない定め館、大天満宮であり、その館が生命界で御座居ます。

芒種のエネルギーの消費物「生命」

「大正腑天神の大靈神理氣」は、天王平の中に宿している丹生丹生魂遺伝子に相応しく、植物と動物と人間とに区分け浮分になり、その三位が一体と成りて、芒種のエネルギーが育てている生き物の命を、食べあい続け通して行く芒種の工

ネルギーの消費物、生命を生産出させる為に、生えて生やす、生まれて生む、食べて食べられる生氣物消費物として、其の本分本能を全とうする事が約束され、絶対に争い戦いをしない事を誓い、順序よく植物から天王平の入り出口であります天の意和戸を押し開き、個切理児こきりこと謡い囃されながら、真空光帯の示元津「月施津」を指して、飛び立ち巡りめぐりて、月施津に到着するので御座居ました。

生命の誕生と月施界

月施界に到着する丹生丹生魂遺伝子が持っている八十二の染色体を、直ちに四十二と四十の双津に分けられて、四十二の染色体の持ち主には、金剛蔵王の金玉が授けられて、岐分けの身業が與えられるのであります。

そして、四十の染色体の持ち主には、丹生丹生魂に子生産の染色帯（ミトコンドリア）が與えられ、新月の糸月から望月の如くに身変しても、元の身体に還る柔の秘身が授けられ、月を経て生身の身分けの実業が與えられるので御座居ました。

望月の月明かりに照らされながら、正義と良心の神「大正腑天神の大靈神理氣」により、植物は雄蕊と雌蕊に浮別けされ、動物には雄と雌に浮別けがされ、人間は男と女に浮別けがされて、蜜と乳を生産出させる無色で透明の真空光帯の中にある生産土の地球に、送り込まれるのであります。

後は、日輪太陽が発している芒種のエネルギーを戴いて成長すれば、元々が一津の身の上なれば、一津になろうと慕い想ってか、知らず知らずの蜜月の間に重なり会い、何時しかに姿なき靈魂を形ある胎児に遊ばされるのが、明神の神靈の具現で御座います。

この出来事も総ての生命を総括されて居る大正腑天神の大靈神理氣の賜物で御座います。未来永劫に、この大靈神理氣の基に、生命の弥栄が在り、芒種のエネルギーを消費する生氣物の生命は、太陽が燃え続く限り、永遠不滅に存続し続き、その生氣物の魂は、死と共に靈魂となりて、太陽のエネルギーとして、不滅に燃え続けて行く仕組みが太陽界であるので御座居ます。

それぞれの生氣物が、生命を継承する一齣として一生を終えて、生はそれぞれが発生した示元津（故郷）に還り逝く刻が、総ての生氣物の死の刻でございます。

残された靈魂は善魂と悪魂に区分けされて、善魂は金星界から水星界に逝き、日輪界にて金剛蔵王のエネルギーを戴いて燃え尽きて、新たな丹に生産れ変わる靈魂となり、それに反して、生命界の仕組みを蔑ろに為した悪魂は、火星界から木星界・土星界に逝き、果ては冥王星界から太陽の真光が届かぬ無生津に追放される靈魂となるのでは、生まれ変わる事が出来ないのです。悪魂が多ければ多いほどその国・民族は少子化となってしまう輪廻転生の神仕組みがある事を知理、そのような悪魂にならない為に生産祭りの理を確りと知理置かねばならぬのでございます。

畏